学校だより

深 谷

令和５年６月３０日

７月号

横浜市立深谷小学校

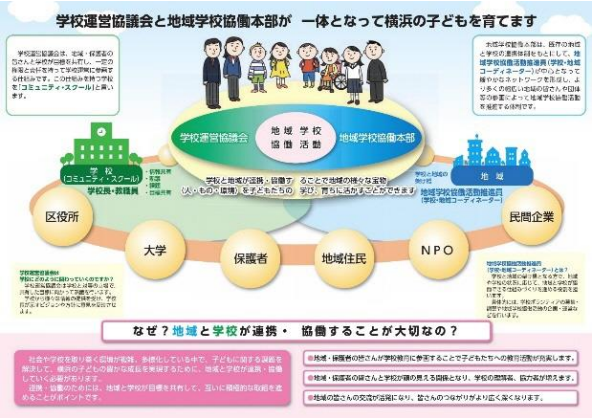
https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/fukaya

まちとともに

校長　　石原　加代子

時折降る雨に紫陽花の美しさが際立っています。土曜参観では、たくさんの方々にご来校いただきありがとうございました。お子様の成長を感じていただけたでしょうか。

６月６日には第１回目の「学校運営協議会」を、１３日には「共育ボランティアネットワーク（地域学校協働本部）」の運営委員会を開催しました。どちらも下の図にあるように、学校と地域が連携・協働することで地域の様々な宝物（人・もの・環境）を深谷っ子の学び、育ちに活かしていくための組織です。本校はこのような教育環境が充実しています。



リーフレット「地域とともに子どもを育む学校づくり」（令和２年度版）横浜市教育委員会　より

学校運営協議会では学校目標や方針を共有し、それぞれの立場からご意見をいただきました。小規模校の強みを活かして縦のつながりができていること、深谷中ブロックの小中連携が大切であること、まちとのかかわりを深めて教育活動で連携していくことなど、深谷っ子の豊かな育ちを目指して話し合いました。

６月の委員会活動では、飼育委員会の子どもたちが深谷っ子愛護会の方々と一緒に花壇に花を植えました。深谷っ子愛護会の方々は早めに来校して子どもたちが作業をしやすいように花壇を整備してくださいました。４色の日日草を、子どもたちが好きな配置で植えられるようにと、それ以上は手を出さずに見守られていました。６年生を中心に話し合い、赤、濃いピンク、薄いピンク、白の順で、グラデーションに配置しようと決めました。子どもたちの思いを大切にし、子どもたちに考えさせ、相談している時間は急がせることなく穏やかに待ち、必要なところで植え方などを助言してくださいました。私たち教職員も、こうありたいと思っています。しばらく経ったある日、大雨が直撃して一部の花が枯れてしまったのを目にした低学年の子どもから、「かわいそう。」という言葉が聞かれ、植物を慈しむ心が育っていると感じました。

また、山田さんや川田さんのお力を借りて、「横浜みどりアップ計画」による環境学習農園事業として、深谷っ子農園で苗の植え付けから収穫まで体験し、作物を作る楽しさや大変さを理解するとともに感謝の心を育てています。スマイル級では、育ててみたい作物を山田さんに相談してヤーコンやコリンキー等に挑戦し、実が大きくなるのを見て目を輝かせています。先日は、歓声を上げながら鈴なりに実ったジャガイモを収穫したところです。みんなでジャガイモ料理を作る計画を立て、期待を膨らませています。

これからも、保護者や深谷のまちの皆様と連携・協働してよりよい教育活動をつくり、深谷っ子の豊かな成長が見られるようにしていきます。引き続き、ご理解とご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。